

# 西東京市第3次総合計画策定に向けた企業・団体等ヒアリング結果まとめ

第7回総合計画策定審議会  
令和4年9月6日  
資料5

## (1) 協働・市民参画 (ヒアリング: 5団体 アンケートのみ: 1団体 計6団体)

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>数多くのさまざまな団体が積極的に活動している。活動を長期にわたって継続している団体が多い。</p> <p>人材が豊富であり、新たに市民活動を始める市民が増えている。各小中学校を拠点とする避難所運営協議会が組織され、防災・減災の意識を地域から発信している。</p> <p>コミュニティFM放送局があり、市民が自身で番組を持つなど情報発信に努めている。</p> <p>他地域から転入する方が多く、人口が増えている。</p> <p>都心に近いベッドタウンであり、経済的に安定した世帯が多い。</p> <p>ベッドタウンでありながらも緑や農地が保全されており、自然環境が残されている。</p> <p>やる気のある農家が多く、都市農業として狭い農地でニーズの高い農作物を生産している農家が増えている。</p>	<p>活動団体は多いが、同じ活動をしている団体が複数あり、連携が取れていない。</p> <p>地域コミュニティの希薄化が顕著である。市民活動に積極的な市民がいる反面で、まったく無関心で市民活動や地域コミュニティとの接点を持たない市民も多い。</p> <p>自治会等の地縁組織がない地域が多い。</p> <p>住民の入れ替わりによって地域コミュニティが変化している。</p> <p>仕事や介護等で忙しく、地域活動に参加できない人が多い。</p> <p>活動団体同士や行政との連携が不十分である。また、活動に使用する施設や設備も不足している。</p> <p>ネガティブな文脈で「旧保谷市」「旧田無市」と発言する人が今も存在する。</p> <p>市や市の取組みについてのアピール方法を検討すべき。</p> <p>西東京市を一言で表すキャッチコピーがない。</p> <p>西武池袋線と西武新宿線の南北のアクセスが非常に悪いため地域に隔たりが生まれるほか、利用できる市の施設に限られる。</p>	<p>団体活動の継続にあたっては人件費に課題があり、スタッフの使命感によって活動を維持している。</p> <p>集会や活動に利用できる場所の確保が難しい。</p> <p>紙媒体やSNS等を利用して活動についての情報発信をしているが、なかなか届かないのが現状である。</p> <p>コミュニティFM放送局を通じて、地域的话题を地域の人の声で届けている。</p> <p>住民の孤立や情報難民を減らしたい。</p> <p>もっと気軽に都合の良い時にボランティア活動に参加できるようになると良い。</p> <p>ボランティア活動の周知・啓発活動を小中学生に対して行い、未来の担い手を育成する。</p> <p>各種団体、自治会、行政の間で情報共有し、連携して活動できることを目指す。</p> <p>駅前情報発信拠点を中心とした賑わいの創出・観光案内機能を持たせる取組。</p>	<p>日頃からの近所付き合いによる、お互いに助け合う地域づくりを行う。(くらし)</p> <p>簡単に楽しくまちづくりに参加できるメニューがあり、多種多様な人々が関われる仕組みがあると良い。</p> <p>フレイル改善のため、高齢者が外に出て体を動かし交流する機会を作る。</p> <p>西東京市から都心へ通勤する人々が定年を迎える前から、地域との繋がりを作る。</p> <p>人材バンクのような仕組みを作る。</p> <p>若い世代の専門家のネットワークによって市の課題を解決する仕組みを作る。</p> <p>西東京市の魅力や将来像を発信し、多くの市民に知ってもらう。</p> <p>西東京市を一言で表すキャッチコピーを新たに考える。</p> <p>市内の観光資源や史跡等を巡るルートと看板等を整備し、まち歩きを環境を整える。</p> <p>まちの特色を作って産業を育成する。(まち)</p> <p>石神井川や都立東伏見公園を整備し、都と共同で道の駅のような施設を市内に作り、地場の商品等を販売する。</p> <p>自治体内に西東京市の歴史や史跡に詳しい人を増やし、市の魅力の発見・発掘に繋げる。</p>	<p>行政と市民団体の繋がりの強化。</p> <p>市職員や市役所をもっと身近に感じてもらえるきっかけ作りが重要。</p> <p>誰も取り残さないまちを目標とする。行政がマイノリティの人々を忘れていない、大切に考えていると市民に伝わるまちを作る。(ひと)</p> <p>各団体が連携し、情報や活動を共有する。定期的に諸団体の意見交換会を開催する。</p> <p>若いうちに自分の勤務先(仕事)でのキャリアが地域で活かせる体験をすることで、定年退職前から地域とつながり、自分の居場所として西東京市に愛着を持つと想像できる。行政、企業、団体との協働により「住んでよかった西東京市(愛着度up)」となる。(くらし)</p> <p>定期的に諸団体が集まり、意見交換等を顔を合わせて実施していけば、そこから何かが発生し、連携できると考える。結果が必ず出るとは限らないが継続することに意味がある。</p> <p>公共交通の事業者と連携した、地域の魅力発信事業(市内のスタンプラリーなど)の実施。</p>

## (2) 男女共同参画、人権・平和、多文化共生 (ヒアリング: 4団体 アンケートのみ: 1団体 計5団体)

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>畑などの緑が残っており、子育て環境が良い。</p> <p>市民や企業・団体が市民活動やボランティア活動に理解があり協力的である。</p> <p>市と市民の協働によって事業が行われている。</p> <p>熱い思いで地域活動に取り組む人が多く、彼らが繋がる機会や機能もある。</p> <p>イベント等を通じて市民と市職員との協働がうまく機能している。</p> <p>西東京市で活動されている方は、優しく面白い人が多い。また西東京市の雰囲気や距離感が心地良いと感じる。(まち)</p> <p>委員会や審議会等に限らず、市民の声を聞くとする行政の姿勢が見える。</p> <p>都心へのアクセスが良く、畑や公園などの緑地が残る住みやすいまち。(まち)</p>	<p>市民活動等におけるボランティアへの依存度が高い。</p> <p>町内会の加入率は低く、お隣さんとの付き合いは弱い。</p> <p>他市が真似しなくなるような先進的・独創的なまちづくりがない。</p> <p>新しいまちづくりに本気で取り組むなら、20年、30年先にこの町をけん引するであろう現在20~40代、また、中・高校生をターゲットにした意見集約が必要。</p> <p>西東京市の理念をどう実現するかについてロードマップが必要。</p> <p>市の平和事業に関する広報が希薄であるため、周知の工夫が必要である。</p> <p>学校教育や課外活動のなかに、市民活動団体や地域コミュニティについて、子どもたちが触れる機会が増えるような仕組みや取り組みが増えればより良い。</p>	<p>子どもだけでなく、親への教育も大切である。</p> <p>子どもたちが騙されない社会環境を作る必要がある。</p> <p>メンバーが高齢化し、新たな担い手がいらない。</p> <p>現役世代のメンバーが中心のため、活動にさける時間やマンパワー、また資金繰りに課題があると感じている。</p> <p>市民活動団体同士の交流やコラボレーションを増やしたい。</p>	<p>子供にとってよい施策を捉え直し、子供の成長や子育てを支援する施策に力を注ぐことが重要。</p> <p>西東京市で育った子供たちが大人になってわが町を振返った時に、やはり「故郷」のような情景を浮かべることができたら素敵だと思う。</p> <p>「心の故郷」は何十年たってもその人にとっては「心の風景」としてしっかり根付いているのだと思う。(その他)</p> <p>学校教育や課外活動を通じて子どもが市民活動団体や地域コミュニティに触れる機会を増やす。</p> <p>将来を担う若者世代や中高生を対象とした意見集約が必要。</p> <p>デジタルに強い市民を育成していく。</p> <p>公共のホールや公民館をデジタル活動の拠点とする。</p> <p>市民へのデジタル教育を行い、オンデマンドな街にする。</p> <p>市内に5つある駅を活かして商店街を活性化してほしい。商店街の活性化なくしてまちの活性化はない。(くらし)</p> <p>西東京市の魅力を積極的に市民にアピールし、誇りを持たせる。(くらし)</p> <p>子どもや親、市民も知ることができる情報を広く継続的に発信していくことが重要。</p> <p>現役世代や育児・介護で忙しい人に向けて、西東京市の行政サービスや市民協働、コミュニティについて行政がゆるく発信するメディアがあれば楽しそう。</p> <p>大きな広報力を持つ市報について新たなあり方を模索し、改革する。</p> <p>さまざまな特性や特徴を持つ人々が集って一緒に楽しめる祭りやイベントを開催する。</p> <p>LGBTQなどの多様性を念頭に置き、市民が協働しながら、温かく子供を見守るまちづくりができると良い。(ひと)</p> <p>外国人も地域との関わりを持ちたいと考えている人は多く、そのためのきっかけづくりが重要である。</p> <p>市民と外国人の交流の機会を作る。</p> <p>西東京市の歴史や伝統を継承すべき。(くらし)</p>	<p>市内外の自治体や団体ともっと関係を築きたい。</p> <p>市民と職員が近くなる。顔の見える優しいまちづくりを行ってほしい。(くらし)</p> <p>デジタル技術採用による映像の制作、配信、上映を行政や商店街、他団体、企業と協働したまちづくり。</p>

( 3 ) 子ども・子育て、学校教育 ( ヒアリング：8 団体 アンケートのみ：2 団体 計10団体 )

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>子育て支援は平均以上だと感じる。市民の声をよく聞いて取り組んでいる。</p> <p>子ども条例が制定され、子どもの権利擁護委員が配置されている。</p> <p>オンライン授業やタブレット端末の導入が早かった。新型コロナウイルスの感染リスク低下にも繋がった。</p> <p>スポーツや文化芸術の面で子どもが活躍する場が多く、学校も協力的である。</p> <p>児童センターが地域に根ざして頑張っている。</p> <p>子育て支援や教育関連の小さい団体が多く、行政と連携しながらそれぞれ頑張っている。</p> <p>公立小中学校の約半分に「おやじの会」がある。</p> <p>学生等の若者がボランティアとして子ども食堂に関わっている。</p> <p>地域住民から子ども食堂に寄付等の支援があるなど、地域で子どもや保護者を支えて交流する取組が進められている。</p> <p>子ども食堂同士で協力や連携ができています。</p> <p>放課後カフェ等の不登校の子どもの居場所ができています。</p> <p>公民館やNPOなど市民活動が盛ん。公民館での自主的な学習から組織や活動が生まれ、それらを専門員が推進している。</p> <p>こもれびホール等、身近に芸術に触れる機会が多い。</p> <p>インターネットで情報を配信し、普段からのゆるい繋がりを構築している。</p>	<p>障害児、外国人児童生徒への支援が不十分。</p> <p>学校によって不登校児童生徒への対応にばらつきがあり、不登校児童生徒の家庭は学校や教育相談に不信感を抱いている。</p> <p>私立幼稚園は定員割れしており、経営が大変。</p> <p>保育園利用世帯は増えたが施設に保護者会がない場合もあり、保護者間で繋がるのが難しい。</p> <p>現在でも児童館は十分に機能している（頑張っている）と思うが、どうしても学校が終わった子供が集まる場所ではないため、もっと色々な世代の人が交流できる場になってもらえるとよい。</p> <p>子育て世帯が交流できる場やイベントが少ない。</p> <p>市民団体の構成員の高齢化や活動内容の情報発信が不足している。</p> <p>公共施設の老朽化。</p> <p>市の取組についての情報共有や交流がない。</p> <p>情報の外部発信がうまくできていない。メディアに取り上げられることも少ない。</p> <p>社会との繋がりが切れている人への支援が見えにくい。</p> <p>福祉関連と教育関連の課の連携が取れていない。</p> <p>都や国の施策に追随することが多く、市の独自事業が少ない。</p> <p>狭隘道路の改善が必要。</p> <p>合併した時にすべきであった小中学校の統廃合や二重庁舎の解消への対応ができていない。</p>	<p>PTA役員がなり手不足で、特に父親のPTA参加が少ない。</p> <p>PTAメンバーは1年で入れ替わり、学校によってPTAの運営負担感に差があるため、取りまとめが難しい上に中長期的な改革ができない。</p> <p>組織の柔軟性が不足しており、新しい取組を行っていく。</p> <p>ITリテラシーに格差があるため、ITツールの導入が困難。</p> <p>オンラインでも活動するなど、時代に合った活動をしたい。</p> <p>リーダー的存在となる人材の育成が課題である。</p> <p>地域で子どもを守り育てる雰囲気を作りたい。(ひと)</p> <p>地域の組織や人と連携して活動を広げたい。</p> <p>メンバーが高齢化しているので、現役世代や若者にも活動に参加してほしい。小難しいイメージは避けたい。</p> <p>個人が得意なことや好きなことを活かしていきいきとボランティアをするためにも、コーディネーターがいると良い。</p> <p>困っている人を見つけて窓口まで連れていける市になると良い。</p> <p>運営資金を安定的に調達して人件費を払えるようにしたい。</p> <p>保育園と周辺住民が交流する機会を作してほしい。</p> <p>ヘルプを出すこと、自身の豊かな生活を求めることは権利であると広報してほしい。</p> <p>保護者、学童クラブ、指導員、児童館の間の情報共有や交流を大事にしたい。</p> <p>子ども食堂が深刻な貧困状態を予防する場となるように役割を果たす。</p> <p>高齢者も明るく働けるまちを作る。(くらし)</p>	<p>子どもの声を積極的に聞く。</p> <p>地域格差なく、西東京市全体で共通の子どものための仕組みを作る。</p> <p>子どもが将来西東京市で働くイメージを持てるように、楽しく仕事体験できる場を作る。</p> <p>「子育てしやすい西東京」を推進し、その試行錯誤も含めてメディアに発信する。(ひと)</p> <p>子ども、若者、保護者が利用できる場の案内、紹介をする。</p> <p>住民に開かれた学校を作る。子どもと地域住民の接触機会を作ること</p> <p>で親近感が生まれ、部活の地域移行が進む。</p> <p>不登校や引きこもりの児童生徒への支援を充実させる。</p> <p>地域で子どもを支える仕組みの重要性和市民の役割を周知する。</p> <p>困窮する子どもを支援に繋げる仕組みを作る。</p> <p>子どもや高齢者が孤独にならないように地域で見守る場所や仕組みが必要である。</p> <p>妊娠・育休中の市民による命についての教育など、地域市民の話を聞く機会を作る。</p> <p>児童館をいろいろな世代が交流できる場にする。</p> <p>おやじの会をハブとして異世代の連携を図る。</p> <p>育成会やシルバー人材だけでなく、卒業生の保護者も子どもの見守りに残れるようにする。</p> <p>子どもだけでなく、親のサポートもするべきである。片親家庭だけでなく、母親の家事育児の負担が重い共働き家庭への支援も必要。</p> <p>各小学校区に1つの子ども食堂を開設する。</p> <p>障害者のために、余暇活動支援、グループホームの誘致、就労支援の充実を図る。</p> <p>高齢者が行きたくなくなるデイサービス事業への支援を行う。</p> <p>後継者のいない店と、キャリア転換したい50代のマッチング支援を図る。</p> <p>市民活動を広報して必要な人に必要な情報を提供する。</p> <p>任意団体の活動について、情報発信や団体間での共有化。</p> <p>オンラインネットワーク(メタバース)の構築などにより、地域の住民が手軽に交流することができるデジタル空間の整備。</p> <p>現役世代がオンラインで気軽に参加できる生涯学習の機会があれば良い。</p> <p>小さなきっかけから地域の繋がりを作る。</p> <p>複雑な課題を抱える市民のためにまるごと支援窓口を充実させる。</p> <p>支援制度はたくさんあるので、窓口までたどり着いたら助けてもらえる。困っている人を見つけて窓口まで連れて行ける西東京市になると良い。</p> <p>データ分析とロジカルプレゼンテーション教育を行い、データサイエンティストを育てる。</p> <p>「どこに住んでるの?」「西東京市」「ああ、〇〇が充実していて良い町と聞くよ」と言う会話を他市の人とするのが私の願い。</p>	<p>近所で気軽に参加できる小さなイベントがあると良い。</p> <p>ハロウィンの仮装パレードと繋げた防犯パトロールや避難施設の見学等、楽しいことと地域のためになる活動を繋げる。</p> <p>共働き家庭も参加できるイベントの実施。</p> <p>他団体と協力して子育て世帯向けイベントを実施する。</p> <p>中高生の居場所作りを行い、夜間や休日にも企業と連携して子どもの見守りを実施する。</p> <p>活動は「誰が言っているか」が重要で、関係者の顔が見えた方が興味を持ってもらえる。</p> <p>近隣自治体と連携して、スポーツ施設を利用しやすい環境を構築する。</p> <p>市外へのアピールよりも市民の満足度を高める努力を行政と市民が丸となって取り組むべき。そうすれば周囲からの評価も必ずついてくる。</p> <p>男性に比べて、日中に市内に居る場合が多いと考えられる女性を、地域主体のまちづくり活動のリーダーとして育成する。</p> <p>おやじの会は学校を中心とするまちづくりのカギである。</p> <p>市内には市民活動をしている優れた人が多いので、応援してほしい。</p> <p>生活困窮窓口と市民団体、企業が連携して若者の自立支援を行う。</p> <p>相談先がわからない人と各団体を繋げる。</p> <p>企業、行政、市民団体が連携してフードロス削減に取り組む。</p> <p>家庭の不用品を無料もしくは安価に譲渡できる場を各所に小規模に作る。その際に写真や情報を共有できるシステムを作る。</p>

**（４）生涯学習、スポーツ、文化芸術活動（ヒアリング：3団体 アンケートのみ：2団体 計5団体）**

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>西東京市子育てハンドブック、子育て支援アプリの運用。                      コロナ禍におけるすべての市内小中学校のオンライン授業の実施。                      子育てフェスタの開催。                      教育委員会や教員が理科教育の向上に熱心。                      遺跡や研究所等の文化的な資源が豊富。                      多くの市民活動団体が熱心に活動・発信して行政と市民を繋ぐ役割を担っており、市民意識が高い。                      積極的に余暇活動に参加したり、地域にとって必要な取組を実践している市民が多くいることは財産。                      行政が審議会の意見に真摯に耳を傾けている。                      北多摩地区のコアとなる都市。                      いこいの森公園や東大農場、狭山・境緑道（多摩湖自転車歩行者道）等の特徴ある自然が存在する。                      都心へのアクセスが良く、買い物にも便利。                      幅広い世代がスポーツに親しむ環境がある。</p>	<p>市民団体の活動や市内の文化的資源が近隣の人以上にあまり知られていない。                      居住地域によっては、日常的にスポーツを楽しめない人々がいる。</p>	<p>多くの市民団体の主催者やメンバーが高齢化している。                      共働きの家庭は地域活動に参加する時間がない。                      地域活動に一步足を踏み入れると日常生活すべてを奪われるという警戒心を持つ人が多い。そのような方たちがやりがいを感じられるはじめての一步・デビューの場を多く提供することが重要である。                      スポーツを通じて地域の学生と交流し、地域に貢献する。                      若い世代の活動と繋がるために、アンテナを常に張って関係性を築く。                      次の世代を担う子どもたちにもづくりの達成感や、新しいことを学ぶ機会を提供を目的として、工場見学や工作教室などのイベントを開催する。                      市民に寄り添い、事業を通じてSDGs等の社会課題の解決に寄与していきたい。</p>	<p>子どもが安心して学習・生活できる地域で支援する。                      きめ細かな教育を行い、思考力を身につけた人材を育てる。                      子供だけでなく親の世代にも、地域資源を活用した体験学習と生涯学習を行い、親世代も西東京市の文化的資源について学べる機会を作る。                      各団体の情報がさらに届く仕組みを充実させる。                      文化・くらし・防災を総合した情報を発信する。                      現在活動中の市民や団体をバックアップして、広く市民にその活動と意義を理解してもらう。それを知った市民が地元の魅力に気づき、新たに活動に加わる流れを作り、現在の積極的な市民活動が持続する行政との関係性を作る。                      気軽にはじめての一步を踏み出し、参加できる活動を増やす。                      単なる啓発活動としての講演会形式ではなく、主体的に学び、考え、仲間作りにも繋がるような共同学習の場を増やす。                      新たに活動に参加したい市民や、地域の情報を必要としている市民に情報が届く仕組みを作る。                      コーディネート力を持った市民を多く育てる。  <u>誰にでも出番と居場所があるまちづくりを推進する。(くらし)</u>                      歩行者や自転車が安心して利用できる道を整備する。</p>	<p>子どもたちが様々な仕事を知る機会としての会社見学を実施する。                      行政側が一番やりたいことは何か、どのような情報・資源が出せるのかといったことを積極的に打ち出してもらったほうが、より良いものが作れる。                      市職員が積極的に地域へ出て、一緒に活動や学習をして関係づくりをすることが大切。                      市民団体や地元企業とタイアップし、地域の魅力を発信する取り組み。                      団体同士をネットワーク化し、課題やアイデアを共有したい。                      都市と農業が共生する、環境にやさしく健康で文化的な緑豊かな新たなまちづくりを目指した、学・官・産・民の連携による取り組みの推進。                      市内にある川・水路、緑地、史跡などの価値ある資源が市内全域を俯瞰するとのあたりにあるか、といった視点を多くの市民が持てると、より特色あるまちづくりの意識に繋がる。</p>

**（５）地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉、健康づくり（ヒアリング：7団体 アンケートのみ：5団体 計12団体）**

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>高齢者施設等の福祉施設が多い。                      福祉会館や老人福祉センターでの健康体操等の生きがい推進事業が盛ん。                      地域が狭いため福祉サービスなどの提供に便利であり、様々な事業者が参入してきていて、選択の幅が広がっている。                      地域包括支援センターをはじめ、相談機関が充実している。地域包括支援センターは市内に8か所あり、市及び介護事業所等と連携・協力体制が取れている。                      8名の地域福祉コーディネーターが活動している。                      4つの総合病院をはじめ、クリニックや歯科医院等の医療機関が充実している。往診医も多く、安心感に繋がっている。                      西東京市は、施策全般に健康の視点を持って取り組んでいる。また、健康都市宣言をして健康都市連盟に加入し、保健・医療・福祉・教育との連携を進めて市民の健康を支えている。                      西東京市は市役所の福祉分野の意識が高く、親切に対応してくれる。                      介護保険の利用も幅広く対応できている。                      健診事業が充実している。                      フレイル予防事業に関連して介護予防・地域活動情報誌を通じてサポートプログラムが市民に紹介されている。                      フレイル予防活動は高齢者の就労、活躍に貢献している。                      社会福祉法人が運営する事業所や、市内で活動するNPO法人が多い。                      地域活動が盛んで、公民館活動、地区会館活動、防災自治組織、自治会、地域福祉活動等が長年続いている。                      都営住宅が多く、自治会活動などで住民同士のつながりがあるほか、ほっとネットや地域協力ネットワークといった取組が地域の繋がりに貢献している。                      民生委員の欠員がほぼなく、地域を把握し、地域住民の身近な相談先となっている。                      民間事業者と市が良好な関係を築けている。                      認知症サポーター養成講座は、地域において認知症を正しく理解する上で役立っている。  <u>駅が多く、都心への利便性が高いことで、駅を中心にした特色あるまちづくりの可能性がある。(まち)</u></p>	<p>ケアマネジャー、ヘルパーの人手が不足している。                      障害関係の事業所を繋いで課題を共有したり地域全体を考えたりする民間同士のネットワークがない。                      障害者福祉の視点では、地域での支えあい、生きがいづくりの十分な仕組みはできていない。                      西東京市内を見てみると、それぞれの地域によるサービスの提供に多くの格差があると感じている。ある程度仕方ないことかもしれないが、市民の声をより多く吸収し、サービスの方法を検討する必要があると思う。                      「かかりつけ医」の概念が市民にあまり浸透していない。                      総合病院と開業医との連携が取れていない。                      自助・共助の検討が十分されないまま、介護保険制度や市施策の利用につながってしまう。                      住民同士の繋がりによる福祉や介護予防への取り組みが不十分である。                      認知症になっても安心して地域で暮らせる町づくりが包括ケアの中で弱い。                      西東京市は公民館活動が盛んで、そこから生まれたものも多いが、いろいろな活動はあってもそれぞれの繋がりが薄く、縦割りを越えた活動がしづらい。                      自治会が少なく、自治会の加入率が3割を切っている。団地の中には住民同士のつながりが薄いところもある。                      商店の閉鎖などによる買い物に不便な地域があり、“買い物難民”発生のリスクが高く、高齢者のフレイルの進行の懸念がある。                      調布保谷線や保谷東村山線の道路の開通により、交通の利便性は高まったものの、地域のつながりが寸断されている所もある。                      商店街の活気がない。</p>	<p>事業所の職員が高齢化しており、人材確保が重要課題。                      高齢化社会で認知症の方の数も増えるので、その方たちへの理解が必要。知識を持っていると、いざ直面した時も慌てないで済む。地域で見守る目が生まれて助け合えるようになると良い。                      コロナ禍で認知機能の低下をはじめとして身体的・社会的フレイル傾向が強くなった市民が増えているため、認知症予防・フレイル予防に引き続き取り組みたい。                      住民の孤立・孤独等を予防するため、気軽に集まれる場所が必要である。コロナ禍で高齢者の集まる場が閉まり、外出できない高齢者の足腰が弱ってしまう。                      8050問題の80と50の両方の課題の解決を目指す。                      子どもと高齢者の問題が見えづらく、対応も難しい。                      18歳以上の若者への助けが手薄になっており、長いスパンの支援が必要である。何歳でもどんな事情でも支援できる体制にしたい。                      コロナ禍をふまえた新たな地域福祉活動や地域との交流を推進していくことが課題。                      住民の自主性が十分ではないため、現場できっかけを作り、伴走する仕組みや人の存在が重要である。役所内に限らず、伴走するノウハウを持った人がいると良い。                      精神疾患や病気の入達とともに、地域でどう折り合いを付けて暮らしていくかを探る必要がある。                      コロナ禍においてどのように健康について市民に情報発信していくかが課題である。講演会のオンライン開催も実施している。                      介護職員の待遇改善や社会的地位向上のための活動をしたい。                      退職した介護福祉士、看護師、ヘルパーの登録制度を作り、情報を共有して少しでもヘルパー確保に繋がっていききたい。                      正職員転換制度、資格支援制度を広く周知するほか、表彰制度などモチベーションの向上に繋がる取り組みを図っていく。                      障害者を分けないインクルーシブな活動をモットーに活動したい。                      西東京市でも人生ノートが作成され、普及啓発の動きがある中で改めてアドバンス・ケア・プランニングについて理解を深め、患者とその家族に伝えていきたい。                      高齢期の生活について市民が自ら考え、専門家からの助言等を取り入れながら、自立した生活を送れるよう支援する取り組みを市全体で検討し実施する。                      サービスの提供側と受け手の垣根を取り払い、誰もが主体的に参加でき、自分らしく生き生きと暮らせる町を作っていきたい。</p>	<p>いろいろな人の知恵や力を引き出してうまくまとめるコーディネーターが必要。能力がある人が登録するコーディネーター用の人材バンクを作る。                      地域福祉活動の担い手の発掘と育成、社会福祉事業に携わる人材の確保が特に重要。  <u>あらゆる可能性を秘めた人材が豊かな西東京市で、ひとりひとりがその力を充分に発揮し、互いに寄り添い、支え合える温かいまちで在って欲しい。(その他)</u>  <u>若者が住みやすい、子どもを育てやすい住環境、公園、教育環境を整備して未来ある街にしてほしい。</u>また、高齢者が人生経験など若者に伝え、高齢者自身の生きがいを高めて、孤立を防いでいく(若者が高齢者を見守っていく)集い場があるといい。<u>(ひと)</u>                      教育と福祉とまちづくりを連携させるため、子どもでも西東京市に郷里愛を持てる教育をしてほしい。                      高齢者と若者が交流し、高齢者自身の生きがいを高めて孤立を防いでいく場所があると良い。                      高齢者施設が多世代が集える場所として生活圏の拠点となる。                      認知症サポーター養成講座などによって認知症について全ての小中学校で学べると良い。                      各自がかかりつけの医師・歯科医師・薬剤師を持つ。                      医療情報を市報で発信する。                      健康な人をより健康にさせる取組(特定健診の対象者等へのアプローチ)を実施する。                      市内に点在する接骨院を市民の交流の場として活用する。                      駅前などの人のとりが多い場所に、市民の様々な相談をうける総合相談窓口を設置する。                      地域での支えあいや生きがい作りの有効な仕組みの構築が必要。  <u>「お互いさま」の意識で支え合えるよう、災害、認知症、高齢化などの課題をみんなに関わる課題と捉えて、学ぶ機会を増やす。(くらし)</u>                      サロンなどの外出先が地域ごとにあちこちにあると良い。外出して人と社会的な交流を持つと介護予防に有効である。</p>	<p>認知症やフレイル予防において民間企業・団体との連携が必要。                      複雑で多岐にわたる課題を抱える家族等が増えているため、必要な支援機関が協力して対応できるよう連携を深める。                      医療機関から生活面でのフォローが必要な方を予防事業に繋ぎ、また、地域でフォローして支えられるよう官民を問わない多職種との連携体制を構築する。                      コロナ禍における医療機関、訪問医、訪問看護師、薬局との協力・連携による情報の共有化を図り、円滑なサービスを図る。                      市が提案したものでなくても、より良い取り組みには評価やさらなる発展のためのサポートをする仕組みを作る。                      大学や民間企業と協力して市民にも運動施設を開放し、スポーツ都市を目指す。                      企業の特徴を活かして協力できること、企業が持つ技術を伝え、認められる場・役に立っていると思える場を提供する。                      店舗や交通手段を利用するとき、助けが必要な人へ手を差し伸べてもらえるような理解と寄り添いを促す。                      フードドライブの取り組みを実施しており、市内の企業から協力したいとの声もある。SDGsへの賛同から活動が広がっている。                      障害者が地域で活躍し役割を担うことを目標として、障害福祉課・産業振興課と連携した農福連携事業や、企業を対象とした研修開催、プラットフォームを活用した新たなサービスの開始などの検討・準備を始めている。</p>

**（ 6 ）自然環境、地球温暖化対策、循環型社会、生活環境 （ヒアリング：3 団体 アンケートのみ：2 団体 計5 団体）**

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>住宅地と農地等の緑が混在し、生活環境・環境保全の面から魅力がある。</p> <p>みどりの拠点として、東大農場、演習林や都立の東伏見公園は貴重な存在である。</p> <p>通勤通学等で利用の多い駅前に花壇があり、ホッとできる。</p> <p>ボランティア活動が盛んで、進んで活動している方が多い。</p> <p>SNSでの情報配信や地域のテレビ放送など、市民が公害対策等の情報を得るためのわかりやすい仕組みができています。</p>	<p>市街地化の波が押し寄せており、畑や緑が減ってきている。</p> <p>公共施設が老朽化している。</p> <p>小さい公園が多く、今後使用目的等を考える必要がある。</p> <p>宅地開発に伴う小公園は多いが、大きな公園の計画的な配置が必要。</p>	<p>小さい公園を活用したい。</p> <p>今ある緑の大切さを市民に認識してもらうことが大切。</p> <p>職をリタイアされた方が積極的に活動に参加してくれており、力仕事について非常に助かっている。活動者が高齢化しており、若者をいかに取り込むかが課題。</p> <p>メンバーはほとんど変わらないということもあり、メンバーの高齢化とともに新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からも活動の参加者がとても少なくなり、活動の危機になっている。</p> <p>新しい若い方も参加できる仕組みを考える必要がある。</p>	<p>子どもが自然や緑に親しめるような教育活動を行う。</p> <p>ゴミを捨てづらい環境を作る。</p> <p>身近な学校と住民を単位とした地域を中心に参加しやすい活動を住民が進め、さらにそれを後押しできる環境が作れたら、子ども達の見守りだけでなく高齢者の見守りにもつながる。</p> <p>子どもへの教育を充実させることが今後のためにも重要。教育を通じて小さい時から自然を好きになってもらえると良い。</p>	<p>連携して地球温暖化を抑制する活動に取り組みたい。</p> <p>活動分野が違ってもボランティア同士が繋がってれば、情報共有して寄付などに繋がる。</p> <p>市内での様々なイベントなどに参加し、環境問題について市民への啓発を進めている。</p>

**（ 7 ）住環境、道路、公共交通、防災、防犯、交通安全 （ヒアリング：5 団体 アンケートのみ：3 団体 計8 団体）**

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>幹線道路網の整備が進んできており、移動や運送の利便性と住宅街の静穏とのバランスが取れている。</p> <p>道路整備を随時実施しており、道路交通環境では遅れていた旧保谷市内が都市計画道路の整備によって交通の便が格段に良くなった。</p> <p>市内道路の歩道整備が充実してきている。</p> <p>西武池袋線・西武新宿線・JR中央線の3 路線のほか、南北にバスが通っており、公共交通で生活できる。</p> <p>都心へのアクセスが良く、近年ベッドタウンとしてのステータスが上がっている。</p> <p>田無駅、ひばりが丘駅には商業施設が集積している。</p> <p>ひばりヶ丘団地ののリノベーションや周辺の宅地開発が行われ、住環境が整っている。</p> <p><u>公園などの緑が残された安らげる環境がある。都心から帰ってくると空気がおいしくホッとする。（その他）</u></p> <p>都市と農業が共生している。</p> <p>不動産価格が安定的かつ緩やかに上昇しており、将来にわたって生活するエリアとして経済面でも安心感がある。</p> <p>取り残しもなく理想的にゴミが処理されている。収集袋の住民負担コストや粗大ごみ収集の費用設定も他市に比較し安価である。</p> <p>自然災害の影響が少ない。</p> <p>ここ数年で道路の拡張や上石神井川の拡幅工事が行われており、防犯・防災面の安心感が高まっている。</p> <p>市民団体・NPOや中間支援団体の活動が活発で、ある程度の平時からの連携が可能となる素地がある。</p> <p><u>地域づくりが盛んな土地柄を生かして、地域の住民が地域づくりのプレイヤーとなれる土壌がある。（その他）</u></p>	<p>田無駅とひばりが丘駅間のバス道路が非常に混雑している。</p> <p>幹線道路以外の道路幅員が狭く、歩行者と自転車、一般車とバスが錯綜している。</p> <p>雨の日に傘をさして自転車に乗る、歩道上でベルを鳴らす、など自転車マナーを守らない人が多い。</p> <p>自転車が車道を走るようになり、車両との接触等の危険性が増えている。</p> <p>急な飛び出しや車道の斜め横断もある。</p> <p>緑が少なく公園率が低い。</p> <p>商店街の店舗数が減少し市民生活が不便になっている。</p> <p>木造建築が多いため火災発生時の延焼等が危惧される。</p> <p>コロナ禍で指定避難所運営協議会の活動が停滞している中で、もし大災害が発生した場合に指定避難所に避難者を十分に収容出来ないのではないかと懸念がある。</p> <p>自治会・町内会が未設置で、隣近所との関係が希薄となり、防犯の面で不安があるとの声が多い。</p> <p>自治会や市民活動団体、商店街等の高齢化、および若者・市民への事業の継承が課題である。</p> <p>市の広報手段が、市報・駅の掲示板・公民館・市役所の広報ラックのみなので、良い企画でも市民の参加に繋がらないのが惜しい。</p>	<p>駅前広場整備による交通結節機能の強化、駅周辺のにぎわいの創出。</p> <p>避難所運営協議会が高齢化等の影響で活動がうまくいかない問題がある。</p> <p>働き盛り世代の会員を増やしていきたい。また、活動の将来性を考え、子育て世代にもアプローチしたい。</p> <p>自治会支部単位の見守り活動を推進しているが、役員中心の活動に留まっているので地域ぐるみの活動へと輪を広げていく必要がある。</p> <p>高齢化への対応、高齢者の孤立防止、健康促進、雇用の場、生きがい・やりがいの場の創出などは今後もあらゆるアプローチで進めていく必要がある。</p> <p>外国人のための災害発生時の対応・支援策を考えたい。</p> <p>地域住民が主体的に催事を企画・運営し、ゆくゆくはまちづくりに関わっていくような中間支援を実施していく。</p> <p>高齢化により、祭りなどの運営が困難になっている団地自治会と連携して、アフターコロナを見据えた体制づくりを一からはじめ、イベントの運営を行う。</p>	<p>幹線道路におけるガードレール設置や道路拡幅等の歩行者・自転車安全対策を行う。</p> <p>狭隘箇所の解消と安全対策を実施する。</p> <p>駅前広場の整備を進めることによる、交通結節機能の向上や周辺地域のにぎわいの創出・活性化。</p> <p>道路の無電柱化を促進する。</p> <p>都市基盤整備をきっかけに、個性を持った街を沿線と協力しながら作っていくことが、今後特に重要。</p> <p>生産年齢人口の流入に向けた取り組み（保育施設の充実、商業施設の誘致、住環境の整備）を実施する。</p> <p>災害時の危険度が高い地域や浸水・土砂災害のリスクがある地域について、更なる市民への啓発等が必要。</p> <p>各避難所での訓練や、自主避難所の周知等を行う。</p> <p>より安全な避難経路を確保するため、地域住民とともに改めて避難経路を確認することが必要。</p> <p>避難所運営協議会に関わる市民を少しでも増やしていくことと、事前の平時における関係づくりが必要。</p> <p>ポイント制市民ボランティア（ポイントが貯まると感謝状がもらえる等）制度を創設し、活用する。</p> <p>市の魅力を積極的かつ戦略的にPRして観光客や移住者を増やす。</p>	<p>行政とともに西東京市をさらにPRしていくことが重要である。</p> <p>安心、安全な街づくりには、行政の指導のもと住民の意識高揚、ふれあいの拡充等が必要。</p> <p>URなども地域づくりや課題解決には高い関心を持っているため、催事では互いに連携しており、イベントや活動の充実が図れている。</p> <p>市民や市内高校・大学等の生徒・学生の参加を募り、災害ボランティアセンターの設置訓練を実施する。</p> <p>地域住民、各種団体等に呼びかけて学童登下校時の見守り活動を現場体験してもらい、地域ぐるみの安全対策の情勢促進を図る。</p> <p>リモートワークが定着する中で、都心通勤の市民を地元の活動への参加に繋げる仕組みを作る。</p>

**（ 8 ）産業振興、企業、地域資源 （ヒアリング：7団体 アンケートのみ：2団体 計9団体）**

西東京市の強み	西東京市の弱み	運営・活動の課題と今後の取組	まちづくりのアイデア	行政や他企業・団体との連携
<p>ネットワーク・ヒト・モノ・カネが整っており、事業を起しやす い。</p> <p>女性の働き方を支援する「ハンサム・ママ」の継続によって他市との差別化が図れている。市内で創業する人が増加しており、西東京市モデルが出来ている。</p> <p>起業・操業を支援する事業として「ビジネスプランコンテスト」を毎年実施しており、新産業育成の熱意と西東京市で創業しようという発信ができています。</p> <p>西東京市は女性を中心に元気があり、創業セミナー等も他市と比較して参加者が多い。</p> <p><u>地場産野菜の栽培が盛んであり、住宅街の近くで新鮮な野菜を購入できることは大きな魅力である。都市と農業が共存している街である。</u></p> <p><u>（まち）</u></p> <p>西東京市の農産物キャラクター「めくみちゃん」が農業振興に一役買っており、市内の飲食店で小中学生がメニューを考えた「めくみちゃんメニュー」などが食べられる。</p> <p>保谷梨や植木の農家も多く緑が豊富である。</p> <p>田無駅前デッキなど人通りの多い場所で、地域の特産品を販売している。この立地条件で販売できるのは稀である。</p> <p>吉祥寺や新宿に近く、通勤が便利なのに自然や公園があり、人が温かいから住んでいるという人が多い。（ひと）</p> <p>市内に駅が5つあり、都心へのアクセスが良い。</p> <p>車で30分ほど運転すれば関越自動車道、東京外環自動車道、中央自動車道などの高速道路が利用できる。</p> <p>西東京市は子育てしやすい上に、土地がそこまで高くないので家を買 やすい。</p> <p>スポーツ施設や文化施設など、特徴的・シンボリックな施設がある。</p> <p>コミュニティFM放送局が地域の情報発信の場となっている。</p> <p>田無駅前に情報発信コンテンツが充実している。</p> <p>情報の発信が多く感じられる。色々な情報を得られる。</p> <p><u>市民が西東京市に愛着を持っている。（その他）</u></p> <p>市民が街を好きでいてくれることが強みなのでその輪を広げたい。</p>	<p>吉祥寺や新宿へのアクセスが良いため消費が市外に流出しており、市外から訪れる人は少ない。</p> <p>観光施設が少ない上に周囲で楽しめるものもないため、波及効果が薄い。</p> <p>商店街が活発ではない。</p> <p>西東京市では集客が難しいという先入観から事業設立地が市外に流出している。</p> <p>農産物のPRが弱く、市外での認知度が低い。</p> <p>害獣被害が年々増加している。</p> <p>農業経営者の高齢化及び後継者問題。</p> <p>相続に伴う生産緑地等を含めた農地の減少。</p> <p>市の魅力発信を発信する拠点の1つである公共施設の老朽化が目立ってしまっている。産業の集積地としての施設があっても良い。</p> <p>公共交通機関での市内の南北の行き来がしづらい。</p> <p>西東京市ならではの特産品や名産品と呼べるものがない。名物があっても知名度が低い。</p> <p>まちとしての一体感が不足している。</p> <p>活動は盛んだがまとまりに欠ける。西東京市といえばこれ！というものが ない。</p> <p>市の魅力PRが不足している。</p>	<p>日本全体で経営者の高齢化が問題となっているため、事業継承の取組みを拡充していく必要がある。創業支援を継続しながら、既存の事業者の継承問題にも取り組んでいく。</p> <p>若者や子どもにも野菜の美味しさや地場産野菜の魅力を知ってもらいたい。</p> <p>柳沢の商店街で若い人の出店が増えており、今後さらに創業者が出やすい場所になると良い。</p> <p>吉祥寺と西荻窪のように、田無周辺のまちも田無とは違う魅力で人を集められるようになると良い。</p> <p>地域人材を見える化できるシステムや場があると良い。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように活動ができていない。アフターコロナやウィズコロナを見据えた支援も必要。</p>	<p>創業者に対するソフト面での施策は充実しているため、創業者がフリーで使用出来る場所の提供や開設時の補助金など、ハード面での支援も実施する。</p> <p>ハンサムママ事業の参加者のゴールとしてビジネスプランコンテストを継続する。</p> <p>過去のビジネスプランコンテストや創業セミナー等の参加者が集まって情報交換等ができるOB・OG会を結成する。</p> <p>子どもにも創業教育や事業者と関わる機会を与えてほしい。大きくなった時に地元で活躍できる街のイメージを持っていけると良い。</p> <p>地域の知的資源や若い力・柔軟なアイデアを活用し、産業の活性化や魅力ある地域づくりにつなげると共に、未来の産業を担う人材教育に積極的に関わりたい。</p> <p>公園やスポーツ施設等人が集う場所で、市のスポーツイベント・野菜マルシェなどを開催する。</p> <p>ベデストリアンデッキを活用してイベント等を実施する。</p> <p>市全体のまとまりを生み出す祭りやイベントを開催する。</p> <p>老朽化した公共施設を建て替え、新しい西東京市のシンボルを作る。</p> <p>市内の空き家を地域活動や事業等の拠点として活用する。</p> <p>道路を拡幅し、無電柱化を進める。</p> <p><u>「活き活き働き・生活できるまち」「農やみどりのあるまち」などのソフト面からの魅力発信を行う。キラキラしたイメージを全面に出す。</u></p> <p><u>（その他）</u></p> <p>西東京市としてのブランド統一とPRのため、ブランドメッセージやロゴ、キャッチフレーズを新たに作成する。</p> <p>SNSやメディアを利用して西東京市の魅力を発信する。</p>	<p>事業者間の連携ができるようになると良い。小規模事業者などの悩みや思いを共有していきたい。</p> <p>ふるさと納税の返礼品を充実させ、地域の農業の振興・活性化に繋げる。</p> <p>市や事業者と連携して特産品を生み出す。</p> <p>市内の小学校から大学までが連携してイベントや発表会を開催する。</p> <p>市の防災課と連携し、防災情報の提供体制を強化する。</p>